



## ■ グリーンアジア教員のメッセージ



福岡工業大学  
社会環境学部  
准教授

**渡邊 智明**

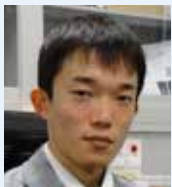
### 私とグリーンアジア・プログラム

私は、2013年3月から5年間にわたり、人文社会系の担当教員として、グリーンアジア国際リーダー教育プログラム (GA) において学生の教育に関わる機会を得ました。振りかえってみますと、私にとってこの5年間は本当に素晴らしい日々であったと思います。専門を超えて先生方と試行錯誤しながら、5年間の博士課程に関わる様々

な教育取り組みを作り上げることに貢献することができたことを大変嬉しく思います。

また、「社会システム学」「国際演習」をはじめとした一連の講義・演習では、環境技術やそれを支える社会・経済制度について、それぞれの出身国の現状を踏まえて学生と議論を交わし、教員としても非常に多くのことを学ぶことができました。本プログラムは、理文融合を理念として、人文社会系の講義や演習を組み込んだというだけでなく、海外研修も特徴的でした。交流大学での研究発表や産業施設の訪問など単なる座学にとどまらない教育プログラムであったという点も非常に評価される点ではないかと思えます。研修を準備する教員としては、交流先である大学との調整や見学する産業施設の選定など、大変な作業に追われる日々でしたが、学生同士の交流が深まっていくのを見て報われる思いであったことを覚えています。

GAの学生にとっては、大学院に進学して専門の研究を深める一方、人文社会科学に関わる科目の履修や演習への参加が求められるなど、かなり大きな負担であったと思います。しかし、GA学生はこのプログラムにおいて、成長しながらこれらの課題をきちんとクリアして巣立っていきました。5年間の教育プログラムを通して、優れた能力を持っていることを証明してくれたGA学生が、近い将来社会のリーダーとして現実に活躍しているという知らせが聞けることを楽しみにしています。



九州大学  
総合理工学研究院 IFC 部門  
助教

**山本 圭介**

私は、GAプログラム開始直後の平成25年1月から平成28年10月まで、筑紫キャンパスでGAセンターの専任教員として事業に参画して参りました。縁あって今も微力ながらプログラム運営に携わっています。あっという間の6年半でありましたが、事業支援の終了であるこのタイミングに、GAの活動と筑紫キャンパスの変化を振り返ってみたいと思います。

この6年半で、私は4度の海外短期研修(実践産業I/II)に同行し、

シンガポール・タイ・マレーシア・台湾を訪問しました。いずれも南方に位置しているため、気温が日本に比べて暑いのはもちろんですが、そこで生活する人々(特に学生)の熱気ある活力に圧倒されたことを覚えています。普段訪れる機会の少ないこれらの地域を訪問できたことは、日々の研究室での日常では得られない経験ができた貴重な体験であったと思っています。

私は学生時代より筑紫キャンパスに籍を置いています。GAが始まる前と今との違いで強く感じるのは、留学生比率の向上です。これは、キャンパス内を歩いているだけで以前との違いが明らかに肌で感じられます。またそれに伴い、食堂などの福利厚生施設のバイリンガル化も目に見えて進んでいます。これらは、同時期に進行した国際化プログラムであるキャンパスアジアやIEIに加えて、GAプログラムの効果の賜物であることは否定できないでしょう。

一方で、筑紫キャンパス内での日本人学生と留学生の交流の深化という点では、まだ不十分であるようにも見受けられます。GAコース学生間での国際交流は比較的深くできていますが、非GAコースの日本人学生と留学生との国際交流は改善の余地があるように感じられます。GAプログラムによって留学生比率が向上した環境を、どのように進化・発展させていくかが今後の課題となっていくことでしょう。